

(様式 1)

令和6・7・8年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(2年次)【小学校】

【学校名等】

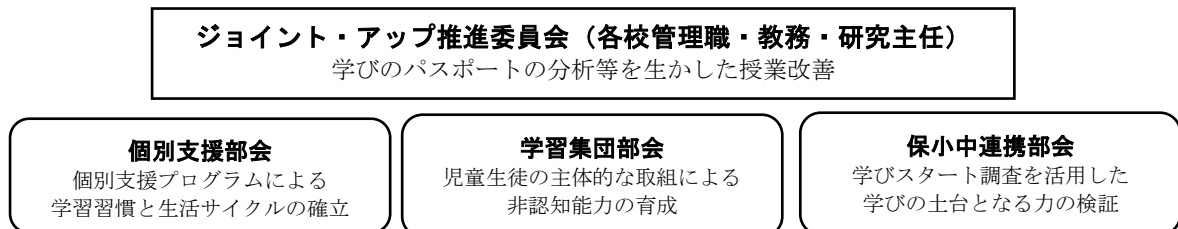
学校名	井手町立多賀小学校							校長名	白尾 尚美
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	児童数	5 8 名
学級数	1	1	1	1	1	1	2		
事業担当教員名	並木 友季								
① 中学校区で目指す子ども像		「地域とつながる力」、「変化する社会を生きぬく力」、「人権を大切にす る行動力」、「たくましく豊かな人間力」これらの力を使い、未来のまちづ くりを担っていく子ども							
② 目指す子ども像		強く（知） 明るく（徳） すこやかに（体）							
③ 目指す子ども像 に対する現状と 課題		・学力テストは、国語・算数ともほぼ全国平均程度の得点がとれているが、個別に課題がある児童がいる。 ・学年を越えた子ども同士の関わりが深く、なかよし班活動（異年齢活動）に楽しんで参加することができる。 ・ICTを活用しながら学習したことをわかりやすくまとめ、相手に伝えることができる。 ・主体的な家庭学習の推進のため、毎週末を「自主学習DAY」とし、自主学習に取り組ませている。 ・全学年単級で、クラスの人数も少ないため、多様な考えに触れる機会が少ない。 ・新しい人間関係を築く機会が少ないため、自分の気持ちや考えを伝える力に弱さが見られる。 ・自ら課題を見つけ、解決に向かう意識に弱さが見られる。							
④ 目指す子ども像 に達するための 仮説		・合同授業を実施することで、様々な意見に触れる機会が増え、考え方に広がりが出るのではないかな。 ・交流遊びや清掃活動など異年齢活動を活発化させ交流を増やすことで、コミュニケーション能力が向上するのではないかな。 ・身近な問題や取組に対して話し合う機会を増やすことで、主体的に課題に向き合い、解決しようとする力が育つのではないかな。 ・ICTを活用し、学習活動を充実させることで、学習意欲や表現力の向上を図れるのではないかな。（CBTの活用） ・課題の発見、解決、整理、発信を通して、情報活用能力を育成することができるのではないかな。 ・個に応じた学習指導を推進することで、児童一人一人が意欲的に授業に参加し、学びを深めることができるようになるのではないかな。							

【1 研究主題】

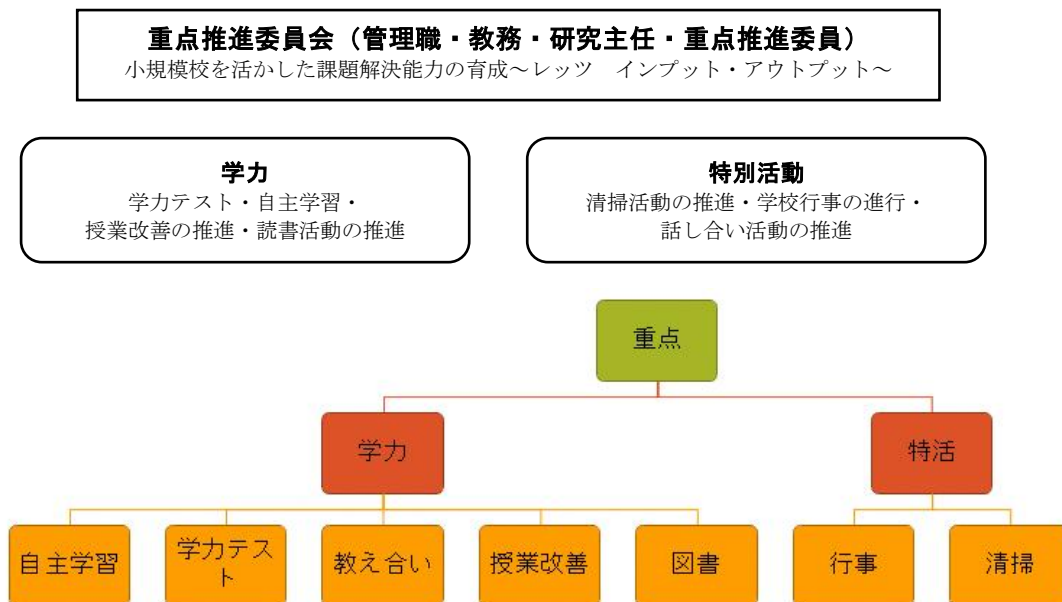
小規模校を活かした課題解決能力の育成
～レッツ インプット・アウトプット～

【2 研究組織体制】

1) 中学校ブロックの組織体制



（2）校内の組織体制



【3 具体的な取組内容】

実 施 月	研究内容、研究方法、成果の公開 等
4 月	校内研（方針）
5 月	JU授業研（井手小）
6 月	重点ブロック研究会（高学年）6 年研究授業・重点事後研究会
8 月	JU夏季研集会
9 月	重点ブロック研究会（低学年）2 年研究授業・重点事後研究会
10 月	重点ブロック研究会（全ブロック）1．3．5 年JU研究授業
11 月	JU授業研（多賀小）
1 月	重点ブロック研究会（全ブロック）、JU授業研（泉ヶ丘中）
2 月	校内研（まとめ）

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
全	3 1	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。	自己調整	
全	4 5	自分の考えたことよりも、相手の方がよい考えを持っていると感じたときは、相手の考えを取り入れるほうだ。	思考の柔軟性	
全	4 8	難しいことでもあきらめなければ乗り越えることができる。	目標に向けて取り組む姿勢	

* 5、6の分析項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法 ・スモールステップで、個に応じた目標に向かって取り組ませ、最後までやりきる力をつけていく。 ・学力値が高い児童が様々な活用問題に取り組めるように個別の課題を用意する。
集団としての具体的な指導・支援方法 ・教え合い活動をクラスだけでなく、異学年でも取り入れることで、アウトプットしながら学習内容を定着させていく。 ・小規模校のため、合同授業などを通して、多様な意見に触れる機会を意図的に増やしていく。

【8 仮説の修正】

・合同授業や教え合い活動を実施することで、様々な意見に触れ、友だちの意見も取り入れながら自分の考えをまとめたり、説明したりする力がつくのではないか。
--

【9 具体的な取組内容の修正】

・教え合い活動では、算数プリントで分からないところを中心に一つ下の学年の児童に教えていたが、算数プリントを使わず、児童が一つ下の学年に向けて自分で問題を作り、丸付けをしたり、分からない場合はヒントを出しながら教えたりする活動へと内容を変えた。

【10 児童の変容（普段の様子から）】

・スモールステップによる目標設定により、見通しを持って学習に取り組む姿が見られ、困難な課題でも最後まで諦めずに完結させる児童が増えた。 ・算数の教え合い活動では、計算する力だけでなく、自ら活用問題を考える児童が増えた。 ・合同授業を行うことで、様々な意見に触れながら話し合いを行うことができるようになり、意見の広がりが見られた。 ・12月の学校独自のアンケート（全校児童対象）では、心理的安全性が高かった。しかし、話を能動的に聞くことには課題が見られた。また、「周りが反対しても自分ができると思ったらやってみる」という項目は学びのパスポートの結果と同じで低かった。

【11 3年次の研究構想】

- ・中学校区で意識している「自己調整」「思考の柔軟性」「目標に向けて取り組む姿勢」の3つの項目に関して、授業の指導内容と関連させて具体的に考え、教材研究を進めていく。
- ・2学期末に実施した非認知能力に関するアンケートでは、話を能動的に聞くことに課題が見られたので、話し合い活動や教え合い活動を活発にし、思考の柔軟性を高めていく。
- ・「聞くこと」に対して全校で重点的に取り組めるように、校内研修を持ち、まずは教師間で意識を共有していく。
- ・単元のゴールを児童と共有し、目標を設定するだけでなく、前向きに取り組む力を伸ばしていく。